第１学年　国語科　学習指導案

本時の主張

私の研修テーマは，「説明的文章の指導における言葉と資料との対応のさせ方の工夫（入門期）」である。本研修テーマを設定するに至った経緯は，以下の視点をもって授業改善に取り組みたいと考えたからである。

資料の特性に着目し，それを活用した授業づくり

文章のみならず，絵や図，写真など，多様に表現された資料から，情報を読み取る力が求められている。私は特に国語科の授業の中で，この情報を読み取る力をもった児童を育てていきたいと考えている。

国語の教科書を見ると，教材文とともに，絵や図，写真など，様々な資料が掲載されている。それらの資料は，文章の読解を補助するために，意図的に掲載されているものである。その中で，文学的文章と説明的文章とでは，用いられている資料の特性が異なっている点に着目する。

文学的文章では，場面の情景を具体的に想像させるために挿絵が用いられている。そこには，作者が文章とともに絵で表したい情景が描かれている。しかし，挿絵画家が作者とは別にいる場合，そこには画家の解釈が含まれ，作者の意図とは異なる場合が起こりうる。このことは，挿絵は，あくまで補助資料であり，重要度はさして高くないと考える。

これに対し，説明的文章における絵や図，写真などの資料は，文章だけでは伝えられないことを筆者が補足する目的で掲載しているものである。筆者が選んだかけがえのない資料であり，文章と資料とで相互補完している関係は，重要度が高く，文学的文章とは異なる点であると考える。また，説明的文章では，対象学年によって，資料の数や内容も精選されており，その目的や活用の仕方も多様である。

このように，教材文に掲載されている資料には，特性があるにもかかわらず，これまでの私の国語科授業では，この特性についての認識が乏しく，授業に生かしてこなかったという反省がある。

本単元で取り扱う教材は，１年生に向けた説明的文章であり，資料である。そのことを考慮し，資料を生かした授業づくりに取り組むことで，授業の改善を図っていきたい。

１　単元名「のりものはかせになろう」

（教材文「いろいろなふね」東京書籍平成 23 年度版「あたらしいこくご」１年下）

２　単元の目標

○　いろいろな乗り物の働きやつくりの工夫に興味をもち，調べるために進んで本を読んでいる。
【関心・意欲・態度】

◎　「いろいろなふね」について，その働きとつくりの工夫とを分けて読み取ることができる。　【読むこと】

○　自分の気に入った乗り物について，働きとつくりの工夫とを分けて説明する「のりものずかん」を書くことができる。　【書くこと】

○　句読点やかぎを正しく使い，「のりものずかん」を書くことができる。　【言語事項】

3　単元の評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	書くこと	言語事項
・いろいろな乗り物の働きやつくりの工夫に興味をもち，調べるために本を３冊から５冊読んでいる。	・「いろいろなふね」について，その働きとつくりの工夫とを段落ごとに分けて読み取り，表にまとめている。	・自分の気に入った乗り物を一つ選び，働きとつくりの工夫とを段落に分け，それぞれを２文程度でまとめた「のりものずかん」を書いている。	・句読点やかぎを正しく使い，挿絵を加えて「のりものずかん」を書いている。

4　単元と指導の構想

(1)　単元と児童

本単元までに児童が学習した説明的文章の教材文は，「どうやって　みを　まもるのかな」のみである。

この単元では，動物の体のつくりと身を守る方法とが分けて書かれていることを読み取った。また，挿絵として示されている動物の絵に着目させ，文章で書かれている体の特徴は，挿絵のどの部分にあたるのかを確認しながら学習を進めた。つまり，文を手掛かりに挿絵と対応させたのである。

本単元では，学んだことを生かし，自分の気に入った乗り物を調べて「のりものずかん」を作ることを単元を貫く言語活動をして掲げる。これにより，教科書の文章のように説明する文章を書くためには，どのようなことを書けばよいか学びたいという意欲を生じさせたい。

教材文は，船の「働きとつくりの工夫」とが分けて書かれている。さらに，文章構成も導入としての「はじめ」，船の具体的な説明である「なか」，まとめとしての「おわり」という基本的な構成で分かりやすい。また，船の写真が複数枚，挿絵として掲載されている。この挿絵は，教材文で紹介されている「客船」「フェリーボート」「漁船」「消防艇」の写真であり，それぞれの船についての説明がなされているページに合わせて掲載されている。そのために，文章と対応させながら実際の船の姿をつかみやすいと考える。

これらのことから，基本的な文章構成を学ぶと共に，図鑑の書き方を学ぶには適した教材文であると考える。

(2) 指導の構想

①　資料の活用について

本単元では，主張として掲げている「言葉と資料との対応のさせ方の工夫」を具現すべく，挿絵として掲載されている船の写真を活用する。この写真には，意味段落の小見出しとしての役割をもたせ，授業で活用する。具体的には，本時において，書かれている船の出てくる順序の確認，意味段落と対応させ文章構成を理解させる際に活用する。詳しくは，本時の構想で述べる。

②　「のりものずかん」を書くために

本単元では，クラスで「のりものずかん」をつくることを目標として提示する。この「のりものずかん」は，乗り物の絵とその解説とで１ページとし，児童一人が１ページを担当する。クラス全員のページを合わせ，「のりものずかん」の完成である。

この「のりものずかん」を書くためには，その要件を教材文から読み取る必要がある。それらを「説明文の秘密」とし，学習の課題にする。その中で，特に読み取らせたいことは，船の「働きとつくりの工夫」である。図鑑に書く解説も，この「働きとつくりの工夫」を想定している。

そのためには，意味段落ごとに出てくる「～ためのふねです。」という叙述に着目させたい。この「～ための」は，その船の働きを指す語句である。この語句に着目させることにより，船の「働き」が書かれ

た段落を見付けさせる。また，その「働き」を達成するための「つくりの工夫」が次の段落に書かれていることを読み取らせる。このことにより，乗り物の「働き」「つくりの工夫」という二つの観点が，「のりものずかん」を書くための要件であることを学ばせたい。

５　単元の指導計画（全 10 時間，本時３／10 時）

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評価				
		関	読	書	言	評価規準
1 2	○　書かれている内容のおおよそを知る。 ・全文通読 ・語句の確認 ・形式段落の分け方を学ぶ。 ・単元の目標の提示	○	○			・単元の見通しをもち，学習に対する意欲をもっている。
3	○　説明文の仕組みを知る。 ・全文通読 ・書かれている内容と船の写真とを対応させて，文章構成を理解する。 ・「はじめ」「なか」「おわり」の文章構成を読み取る。		○			・説明文の基本的な文章構成を本文と対応させて理解している。
4	○　客船・フェリーボートの働きと工夫を読み取る。 ・音読 ・働きと工夫とを文章から分けて読み取る。		○			・客船・フェリーボートについて，働きと工夫とを分けて読み取っている。
5	○　漁船・消防艇の働きと工夫を読み取る。 ・音読 ・働きと工夫とを文章から分けて読み取る。		○			・漁船・消防艇について，働きと工夫とを分けて読み取っている。
7 8 9	○　「のりものずかん」を書く。 ・自分の気に入った乗り物を選ぶ。 ・働きとつくりの工夫とを分けて書く。	○		○	○	・働きと工夫とを分けて，「のりものずかん」を書いている。
10	○　「のりものずかん」発表会を行う。	○				・自分の書いた「のりものずかん」を働きと工夫とが聞き手に分かるように発表している。

６　本時の学習（全 10 時間　本時３時間目）

(1) 本時のねらい

・教材文を主語や指示語を手掛かりに写真と対応させ，意味段落に分けることができる。

・「はじめ」「なか」「おわり」という説明文の基本的な文章構成と段落の役割を理解することができる。

(2) 本時の構想

本格的な説明的文章に初めて接する児童である。説明的文章の基本的な文章構成を本単元では，「はじめ」「なか」「おわり」の３部構成として捉えている。本時では，この基本的な文章構成について学ばせたい。そのために，以下の働き掛けを行う。

働き掛け１　船の写真を提示し，教材文に出てきた順番に並べ替えさせる。

文章構成の説明から入ったのでは，具体がともなわず，理解しにくいと考える。そこで，船を答えとする発問「この説明文には，何が出てきましたか。」を行う。これにより，どのような船が出てきたのかを確認させる。さらに，船の写真を提示する。この写真を並べ替えることにより，書かれている内容の順序を押さえさせる。

働き掛け２　段落をバラバラに分けて提示し，船の写真と対応するように並べ替えさせる。

次に，写真と対応する段落を選ばせる。ここで，写真と段落とを対応させ，意味段落に分けることにより，文章に書かれている内容は，それぞれの船のことを説明したものであることを理解させる。また，船のことについて書かれている文の特徴（主語や指示語）を確認することにより，段落の示す内容を読み取る方法もつかませたい。

しかし，段落を並べ替えるという学習方法に対して対応できない児童がいることも予想される。そこで，段階的に段落を切り分けて提示する。具体的には，「きゃくせん」は意味段落として分けずにまとめて提示する。「フェリーボート」は，意味段落を二つに分ける。「ぎょせん」「しょうぼうてい」は，三つの形式段落に分けて提示する。徐々に課題の難易度を上げることで，学習方法に対して対応できないという状況を生まないようにしたい。

働き掛け３　写真と意味段落とを対応させて，文章構成を目に見える形にする。

働き掛け３では，写真と意味段落とを対応させて文章構成を示す。具体的には，船の写真と，その船を説明している文章とを一つの部屋として囲み，それが四つあることを示す。このことにより，「なか」には具体的な船の説明で構成されていることを視覚的にも明らかとさせる。

さらに①段落と⑭段落が，具体的な船の説明の段落ではないことに気付かせることにより，説明文は，「はじめ」「なか」「おわり」という文章構成で書かれていることを学ばせたい。

(3)　本時の展開と評価

学習内容・活動	主な教師の働き掛けと児童の反応	・指導上の留意点と ◇評価
○　音読	今日も説明文の秘密を見付けよう。	・課題の提示。
	１回読みましょう。	・読み終わった子から座る。
○　教材文に出てきた船を確認する。	この説明文には，何が出てきましたか。 ・いろいろなふねです。 ・客船です。 ・フェリーボートです。 ・漁船です。 ・消防艇です。	・教材文に出てくるすべての船を出させる。 ・発言に合わせて，船の写真を提示する。 ・教科書は，閉じるように指示する。

○　書かれている内容の順番を確認する。	この説明文には，いろいろな船が出てきましたね。では，船の写真を教科書に出てきた順番に並べられるかな。【働き掛け１】	・写真を並べ替えさせる。
	・「きゃくせん」→「フェリーボート」→「ぎょせん」→「しょうぼうてい」の順番だよ。	・教材文を段落毎に切ってバラバラに提示する。ただし，①，⑭段落は含めない。
○　写真と対応する段落を選ぶ。	船について書かれた段落をバラバラにしてしまいました。順番通りに並べられるかな。【働き掛け２】	
	・できるよ。 ・かんたんだよ。	・「客船」を例に，段落の探し方を確認していく。
	客船の写真に合う段落は，どれですか。	
	・「きゃくせん」は，この段落だよ。	・主語に着目させる。
	どうしてかな。	
	・だって，「客船は～」って，書いてある。	・「客船」の意味段落を形式段落に分けることで，指示語に着目することや書かれている内容を読む必要があることを確認する。
	もし，この段落もバラバラになってしまったら，どうやって探せばいいのかな。「客船は」と書いてないよ。	
	・「このふねは～」は，客船のことだからいいんだよ。 ・客室や食堂のことが書いてあるから，「客船」のことって，分かるよ。	
	残りの段落もみんなで並べ替えてみよう。	・まず，個人で並べ替えの作業を行う。その後，全体で検討する。
	・「フェリーボート」は，この段落とこの段落だね。 ・「ぎょせん」は，これ全部だな。 ・「しょうぼうてい」は，この段落全部だよ。	・バラバラにした段落を個人に配付する。それを，ホワイトボードの上で並べ替えさせる。 ・机間支援を行い，個別指導にあたる。
	では，フェリーボートの写真に合う段落は，どれかな。	
	・「フェリーボートは」と書いてあるから，この段落は，フェリーボートのことです。	・主語に着目させる。
	・「このふね」は，フェリーボートのことだから，この段落もそうです。	・指示語に着目させる。
	・「車をふねに入れて」と書いてあって，車をふねに入れるのは，フェリーボートだから，この段落もそうです。	・分け方の理由も述べさせる。

	漁船の写真に合う段落は，どれかな。 ・この段落は，「ぎょせんは」と書いてあるし，次の段落も，「この」と書いてあります。「この」は，漁船のことです。次の段落も魚を獲ることが書いてあるから，漁船のことです。 消防艇の写真に合う段落は，どれかな。 ・この三つの段落です。一つ目は，「しょうぼうていは」と書いてあります。 ・次の段落も「この」と書いてあって，「この」は，消防艇のことです。 ・次の段落は，火を消すことが書いてあるから，次の段落も入ります。	・意味段落と写真とを対応させて黒板に提示していく。 ◇【評価】３枚の写真に合う段落を見付けることができる。（ホワイトボード，発言）
○　「はじめ」「なか」「おわり」という説明文の基本的な文章構成を理解する。	説明文は，いくつかの部屋でできています。いろいろな説明が書かれている部屋を「なか」と言います。この説明文の場合，四つの船の説明が書かれています。 ・な　か」ということは，「はじめ」や「おわり」もあるのかな？ 実は，ここには出ていない段落があります。どの段落ですか。 ・そういえば，出ていない段落もあるよね。 ・①段落が出ていません。 ・⑭段落が出ていません。 ・最初と最後の段落だね。 ・「はじめ」と「おわり」の段落だ。 一番初めの部屋は，「はじめ」。一番終わりの部屋は，「おわり」と言います。小学校で習う説明文は，ほとんどこの形でできています。「はじめ」「なか」「おわり」でできていることが，今日の「説明文の秘密」です。 ・みんなの前で話すときと同じだね。 ・なんだか，あいさつみたいなのが，くっついているね。 ・はじめのあいさつとおわりのあいさつみたいだね。 ・説明文って，ちゃんとした部屋になって，できているんだね。 ・説明文は，「はじめ」「なか」「おわり」で，できているんだね。	・板書を文章構成の形にまとめて提示し，理解を促す。 ・教科書で確認させる。 ・ノートに，「説明文のひみつ」とし て，「はじめ」「なか」「おわり」でできていることを記述させる。 ◇【評価】 説明文の基本的な文章構成について理解できたか。（ノート，発言） ◇【評価方法】ホワイトボード上での段落の並び替え，ノートの記述で見取る。